

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890800055		
法人名	医療法人 竜仁会		
事業所名	グループホームもみじ館 かえでユニット		
所在地	茨城県龍ヶ崎市寺後3937-10		
自己評価作成日	平成29年1月18日	評価結果市町村受理日	平成30年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

もも	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JigyosyoCd=0890800055-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成30年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもとで、安心・安全な生活を大切に、尊厳ある毎日を自分らしく送っていただけるよう支援しています。また、地域とのつながりや家族との信頼関係を大切にしています。職員一人ひとりが専門職として日々学びサービスの向上に努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧市街地で通りに面しており、当法人が運営するデイサービスに隣接した静かなグループホームである。開所後まだ1年だが、職員は多様な施設を有する法人内で働いていた職歴をもち、勤続年数も長い方が多い。また、積極的な意見交換がされるなど職場環境も良く、安定したケアができていたと感じた。利用者は、それぞれの個性が大切にされ、訪問時、評価員に楽しそうに話しかけてくれ、居室に案内してくれるなど、明るく過ごされていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの入口や食堂等に理念を掲示しているほか、始業前に理念を唱和している。事業所目標は理念を基に作成し実践につなげている。	理念は、開設時に職員が話し合って作った。申し送り時に唱和し、一人ひとりの職員が理念に沿った目標を定め、実現しようとしている。利用者のペースを大切に、ゆったりと支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の区長と定期的に連絡を取り合い、自治会にも加入している。地域の夏祭りに参加した他、保育園児との交流を積極的に図っている。	近くのスーパーに出かけたり、散歩をしているときに、出会った方とあいさつを交わす。開設時には近隣の方に声をかけ、グループホームの説明と開所のあいさつをした。問い合わせの電話や見学に来る方がある。中学生の体験学習ではお礼の手紙をもらい、利用者に披露した。保育園児がハロウィンの日に来てくれ、利用者がとても喜んでいたので、今後は保育園に出かけて交流することなども検討していきたいとのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職業体験や高校生の実習受け入れを積極的にを行い、認知症高齢者への理解を深めてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議でサービス提供状況や今後の予定を報告し、参加者の意見や助言を基にサービスの向上を図っている。	2地区の区長、民生委員、地域包括職員、市職員と家族の参加も多く、積極的に意見交換されている。平日の開催が多いが、家族の意見を取り入れて、日曜日に開催することもある。スライドを映写したときは「利用者の様子がよくわかった」との反応があった。議事録を作成し、家族や推進委員には郵送、職員には回覧して内容の周知を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のお知らせや議事録を市に直接持参し、不明点などを相談させていただいた。また、もみじ館全体のスキルアップ研修として地域包括支援センターと連携を図り、認知症サポーター養成講座を開催し、参加した。	開設時から、市職員に指導を受けており、日曜日開催の推進会議にも参加してくれるなど、良好な関係作りがされている。成年後見制度を利用するにあたって、市や包括支援センターに相談を検討している事例がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームとして身体拘束ゼロの手引に基づいて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束をしなければならない時はマニュアルを順守している。	法人に『身体拘束廃止委員会』があり、手引きを基に支援している。身体拘束や権利擁護の勉強会も行っている。ベッド柵4本の必要性について話し合い、転倒予防のために家族の同意を得てセンサーをつけ、ミーティングで評価を行っていたことがあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて虐待に関して学ぶ機会を持ち、虐待についての理解を深め、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて権利擁護に関して学ぶ機会を持ち、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に時間を作っていただき、利用者様やご家族様に説明を行い、疑問点等について話し合い理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・電話連絡時にご意見を頂戴し、内外共に情報共有し運営に反映している。施設の担当者並びに市町村相談窓口を家族に伝えている。	毎月、個別に写真付きの生活状況報告を作成して家族に送っており、家族からも「見て安心できる」との評価がある。推進会議に参加される家族も多く、毎回意見を出してくれる。食事前の体操に対し利用者様から「調理中の体操は不衛生ではないか」との意見を受け、体操の時間をずらすなど柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前に意見書を提出してもらいユニット・全体ミーティングで検討している他、適宜コミュニケーションを図り、運営に反映させている。	月1回のユニット会議、全体会では、事前に提出された意見に基づき話し合いを行っている。法人職員歴の長い方が多く、業務改善についてもケアの統一をどう図るかなど率直に意見交換できている。職員の提案に対し「やってみたら」と委ねてもらえることが嬉しかったとの声が聞かれた。個別目標については、年2回検討しており、新人職員には事業計画・理念を基にした目標設定を指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入しており、本人のレベルに合わせた目標設定・自己評価を行ない、総合評価にて昇給等に反映される。面談を行い働きやすい職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア開発室や介護教育委員会による研修計画に沿って研修の機会を確保したり、外部研修の推進や委員会による研修の機会がある他、介護福祉士資格取得の推進を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所へ見学に行き交流を深め、職員の実習を行わせていただいたり、介護事業所連携事業の研修会に参加している他、もみじ館スキルアップ委員会による合同研修会開催などに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の声に耳を傾け安心できる関係づくりを心がけ、これまでの慣れ親しんだ生活を継続できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人と面談・調査を行い十分に要望を聞いている。いつでもお声掛けいただけるような雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況を十分にアセスメントし、ご本人・ご家族にとってより良いサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のそばに寄り添い、出来る事、やりたい事を引き出しながら、日々の家事や楽しみを共に行い過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者様の生活状況を報告書にまとめて送付。利用者様からご家族への要望などもこまめに連絡している。また、ご家族も行事に参加していただき、参加できないご家族には面会の時に状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近隣の方、お弟子さんの面会などはご家族の了解のもと自由に行っている。自宅やお墓参りなどもご家族協力のもと行い、馴染みの人や場所との関係を保っている。	同建物内にあるデイサービスにボランティアとして来た方と知り合いだった利用者が一緒に写真を撮るなど交流をした。契約時に面会者に関して家族と話し合っており、面会時のトラブルはない。ある洋菓子店に勤めていた方は「〇〇のケーキが食べたい」と言い、誕生日のケーキは希望にそっている。携帯電話をもち、家族と連絡をとっている利用者もいる。ダンスの先生をされていた方が「ハイ皆さん！」と呼びかけ、体操の先生として活動してくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が気持ち良く交流できるような環境づくりをしている。交流が苦手な方や、上手く話しが出来ない方には職員が寄り添いながら支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃より、何でも相談していただける関係作りに努めている。今後、契約が終了しても関係を断ち切らない体制づくりをしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様には直接今後の暮らし方の意向を確認している。困難な方には、ご家族からの情報や日々のかかわりの中から意向を把握し本人本位に対応できるよう努めている。	利用者に対する気づきについては、24時間シートや日誌などに記録し、職員間で情報を共有している。耳が遠い方がおり筆談で会話をすることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活やサービス状況は、担当ケアマネジャーやご家族より情報を提供していただき把握している。入居後は新たな情報を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員の気づきや個人の生活記録、健康記録により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにユニットごとにカンファレンス、モニタリングを実施し、6ヶ月ごとに介護計画の立て直しをしている。	担当職員がおり、計画作成者や担当職員が家族の面会時に意見を聞き、担当者会議を開き、本人の思いを基に計画を作成している。24時間シートに個人のプランが記入されており、確かめながら記録できるようになっている。暴力的行動にはマーカーを入れ、職員全体が把握できるようにしている。ユニット会議等でモニタリングを行い、次の計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活シートを活用し、24時間の記録をこまめに行なっている。日誌には特に重要な申し送りとして利用者様毎に記載し、全職員が共有、実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに柔軟に対応できるようなサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問やボランティア、中学生の職場体験などを積極的に受けれている。また、地域行事への参加を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にし、かかりつけ医による適切な医療を受けられるように支援している。	法人内の病院から月2回往診がある。かかりつけ医を受診される方は原則家族対応で、必要に応じて日頃の報告をする。受診記録を整備し、適宜家族と連絡をとっている。歯科は必要時のみの往診であるが、予防のための定期訪問を検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調変化等について状況報告をし、適切に受診等の対応をとれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関との情報交換を適切に行い、経過についても地域連携室と連絡を取っている。退院時には注意事項等の確認を行い、帰所後に適切なケアが行われるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に緊急時や容態が悪化した場合の説明をさせていただき、状態が変化した場合にはご家族と話し合いを行い、医療関係者と共に支援に取り組んでいる。	現在は法人内に特養や病院など多様な施設があるために看取りは行っておらず、契約時に説明をしている。「いつまでいられるのか」との不安を持つ家族の方もおり、状況に応じて説明している。管理者は看護師だが看護職の配置ではなく、緊急時の対応など職員研修の必要性を感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って急変や事故発生について職員へ周知している。AEDの訓練は、入職時及び年一回の実施を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	7月に水害時避難訓練、1月に大規模災害時避難訓練を実施。2月に夜間避難訓練を実施予定している。	マニュアルを整備し、水害時の避難先は法人内で高地に立地する施設になっている。夜間想定訓練では連絡網がまわるのに時間がかかってしまったことが反省点としてあがっている。火災予防の為、毎日コンセントのほこりをチェックしている。食料品や備蓄品、持ち出しグッズの用意がある。	住宅街で道路に面しているため、区長や消防団を通じて声かけをし、地域の協力を得られるような更なる働きかけを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する研修を行い、利用者様へ丁寧な言葉かけを行うよう心掛けている。個人情報保護に関しては、ミーティング等で周知し、実施している。	人生の先輩として、丁寧な対応で信頼関係を築くようにしている。トイレなどへの誘導時や耳が遠い方にも、近くで声かけをするように配慮している。一人ひとりの違いを理解し、個別に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を訴えた際は、話をゆっくりと聴く時間を持ち、希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースに合わせ、可能な限り希望に添えるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は利用者様が季節に合ったものを自身で選べるよう支援している。理美容は毎月希望を確認し、実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回、お楽しみメニューを実施。宅配釜飯や外食、手作りおやつ等を行っている。利用者様には簡単な調理や食事の準備、食器拭きなどをお願いしている。	食材業者のメニューと食材を利用し、ユニット毎に調理して職員も一緒に食事をする。野菜の皮むきなど、できる範囲で行うこともあり、食器やテーブルを拭き、他の利用者の分まで下膳する方もいる。月2回は職員が利用者の意見を聞きながらお楽しみメニューにする。誕生月にはケーキとプレゼントを用意する。敬老の日には全員で外食ができた。お弁当や出前をとることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は制限食や食事形態、好みなど一人ひとりに合わせて対応している。水分量は入居後1週間はチェックを行い、1000ml以下の方は継続チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食前と毎食後口腔ケアを行っており、本人の状態に応じて支援している。夜間も同様に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態に応じて声掛け、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を継続できるよう支援している。	個人の排泄パターンを把握して声かけをすることで、尿とりパットを使用されていたが不要になった方もいる。夜間帯のオムツ交換は睡眠を妨げないように配慮するが、尿量の多い方は時間で交換している。便秘予防に力を入れており、下剤により軟便になってしまったが薬の調整を行い排便コントロールができるようになった方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の確保や牛乳・ヨーグルトの提供、1日2回、体操などを行い便秘予防を行っている。また、排泄パターンを把握し、個々に応じた支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表に沿って声掛けを行い、体調や気分に合わせて、柔軟に入浴日の変更等を行っている。入浴前には健康チェックを行い体調を確認している。	週2回以上、午後入浴を基本にしているが、柔軟に対応している。拒否の方には工夫をして入浴の支援を行う。ゆず湯などのほか、入浴剤を使用し季節感を出している。皮膚の乾燥などに配慮しているが、足拭きマットは共用になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの物を持参していただき、状態に応じて休息の声掛けをしたり、本人の生活習慣に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服チェック表を作成し、2人体制で内服チェックを行い、誤薬の無いように努めている。内服の留意点などもスタッフに説明し、利用者様の状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて、テーブル拭きや食器拭き、掃除機掛けなど出来る事を行っていただいている。季節に応じた行事を企画し、季節を感じられるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所へ散歩に出かけ、地域の夏祭りにはご家族様にもご協力いただき出掛けるなど、季節を感じられるよう努めている。	散歩は状況を見て近くのスーパーまで出かけた後、神社に行く。デイの行事に参加することもある。精米や買い物と一緒に出かけることがある。市内の公園や初詣、花見に出かけ、市のバザールにも出かけた。家族と相撲を見に行った方がいる。次年度はADL改善・低下予防のため、リハビリを実施したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物や本人が希望する物は職員と一緒に買い物に行き、代金を施設で一時的に立て替え、支払い出来るよう支援していく予定。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	一部の方は自身の携帯電話を持ち自由に連絡している他、希望があれば電話を掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に季節の壁飾りを製作して掲示している他、各居室の入り口に季節の花(造花)を配して季節を感じられるよう工夫している。	ホールや廊下が広くゆったりとした空間であり、廊下で歩行訓練をしている利用者がいた。とても手先の器用な利用者が作った立派な作品が飾られていた。利用者の特性にによって、ユニットの掲示物や飾り物の違いが際立っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で会話ができるよう、座席の工夫をしたり、一人でもゆったりと過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ寝具等をお持ちいただいている他、家族の写真などを飾り、居心地の良い空間づくりに努めている。	居室も広く、チェストとベッド・布団が用意されている。家具の配置は動線の安全性を配慮しながら家族と決めている。ハンガーラックやソファ、冷蔵庫、写真や作品などが置かれ、個別の部屋作りがされていた。俳句を趣味とする方は机とイスを置き、そこで作品を作っているとのことであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を掲げ、トイレやお風呂には目印になる物を貼り、場所や水の流し方がわかるように配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームもみじ館

目標達成計画

作成日: 平成 30 年 6 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	住宅街で道路に面しているため、区長や消防団を通じて声掛けをし、地域の協力を得られるような更なる働きかけを期待する。	区長や消防団に声掛けをし、地域の協力を得られるよう取り組む。	区長と避難経路について話し合いを行い、消防団にも避難訓練に参加してもらえる様声掛けする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。